

# 教育課程研究部会

## I 研究テーマ

「教育課程実践上の工夫」

## II 研究テーマの設定の理由

現行学習指導要領がスタートして小学校では4年目、中学校では3年目を迎えた。各学校では、特色ある教育課程の工夫・実践に努めている。

学校評価の結果を生かした教育課程の編成をどう進めていくか、学力向上に向けて教育課程をどのように編成していくか、授業時数の増加にどう対処していくか、授業時数確保にむけてどんな工夫をしていくのかなど、課題は多い。

現行学習指導要領を実施していく中での課題について、どう教育課程実践上の工夫をしていけばよいかを考え、上記のテーマを設定した。

## III 研究の経過と内容

### 1 研究の経過と内容

各学校では、特色ある教育課程の工夫・実践に努めている。各学校で教育課程実践上の工夫していることについて、発表し合い、情報交換をしていく中で、成果と課題について討議を行った。

〈K小学校の取り組み〉(抜粋)

昨年度に行われた学校評価及び学校関係者評価をもとに、年度当初、今年度の学校経営方針が示された。教育課程部会での研究テーマに沿って、主な取り組みを紹介する上で、特に関わりの深い部分を示す。

(1) 「教育全体構想図」に掲げられた取り組みについて

① 開かれた学校づくり

- ・保護者、地域との連携（PTA活動、防犯パトロール、地区の行事への参加）
- ・積極的な学校開放と情報発信
- ・学校関係者評価委員会を生かした学校評価

② 特色ある学校づくり

- ・地域人材を活用した教育活動の推進
- ・表現力の育成と自主性を生かした体力づくり
- ・親子読書の推進
- ・家庭教育の充実

(2) 「学校経営方針 指導の重点」に示された主な項目

① 確かな学力を育む指導と評価

- ・体験的な学習の重視と思考力・判断力・表現力などの活用する力の育成
- 生活科や総合的な学習の時間、特別活動等を中心にした体験活動の充実(地区探検、

お年寄りとの交流，福祉体験 等)

・読書活動の充実

朝の読書タイムの充実(雅の会，保護者・教職員，子ども同士による読み聞かせ等)  
委員会活動による読書の推進

・校内研究の充実

3年間を見通しての研究づくり(県：授業改善プラン実践事業，市：確かな学力向上推進校)

② 心の教育の充実と「心の居場所」づくり

・生活に生かせる道徳教育の充実やしなやかな心の育成

児童会活動，〇〇タイムの充実(縦割り活動，委員会活動等)

・児童理解を軸にした生徒指導の充実

外部機関(児童相談所，市子育て支援課等)との連携(管理職・担任)

③ 健康・安全教育と体力の向上

・一校一実践，ストレッチ体操，なわとび

・自主性を生かした体力づくりの工夫(委員会活動でのドッジボール大会 等)

④ 信頼される学校づくり

・地域人材や施設を活用した教育活動の充実(読み聞かせ朗読：雅の会，母親ボランティア，クラブ活動ボランティア 等)

・家庭教育の充実(地域と連携した道徳授業参観と教育講演会)

1学期の取り組みの現状については，次のとおりです。

(1) 確かな学力を育む指導と評価に関わって

今年度の山梨県学力把握調査結果から，小3算数では，数の相対的な大きさについての理解，数直線から最も小さい1目盛りの大きさを読み取ること，直角三角形から直角になっているかどを判断すること，グラフから資料の数値を読み取り，示された考えが正しいことの理由を記述することにつまずきが目立った。

小5算数では，数の相対的な大きさについての理解，長方形や平行四辺形などの図形の定義や性質・立体図形の辺や面の関係の理解，折れ線グラフから増え方が最も大きい区間を判断し，その判断の理由を記述することにつまずきが目立った。

そこで，次のような点に留意して，授業改善を図ることにした。

- ・引き続き，基礎的・基本的な計算の適度な繰り返し練習の機会を設ける。
- ・子どもが，自ら問題の解決を図るための課題を見つけ，見通しをもって学習し，自らの言葉で学習をふり返ることができる力を育むよう，既習事項を振り返ったり，子どもの考えを結び付ける言葉かけを行ったり，子ども同士が話し合ったりする場を設定したりしながら，学び方を指導する。

- ・ 日常生活での事象や場面の中にある数量関係の規則性を見いだせるように、具体的場面や体験を重視して指導する。

(1) 「読書活動の充実」に関わる主な取り組みと予定

- ① 「ブックの日」の設定：毎月「9」の付く日（9や19）を「ブックの日」として、教師による読み聞かせを行う。
- ② 家庭読書の日の設定：毎月第二土曜日を「家庭読書の日」として、親子で読書することを呼びかける。
- ③ 読書週間の設定：保護者ボランティアによる読み聞かせを行ったり、保護者の代表者たちが選定した本と感想文ノートを回して、親子で読書したりする。
- ④ 読書集会の実施：講師を招いて読み聞かせ集会をする。
- ⑤ 図書委員会活動による読み聞かせや図書館の利用を促す取り組み。

（ブックラリー、お話レストランなど）

(2) 心の教育の充実と「心の居場所」づくり

引き続きあいさつ運動に取り組んだ。全体的にはよくできていると評価されているが、まだ不十分という意見もある。自ら進んであいさつをするという気持ちをさらに高めていく必要がある。朝の旗振りのおとうさんやおかあさん、見守り隊の人たちにあいさつや感謝の気持ちを伝えられようように指導を充実させていきたい。

また、スクールカウンセラーや地域の教員OBによる学習支援ボランティアなど、外部の専門家や専門機関と連携し、児童理解に努め、一人一人の多様な特性に合わせた個に応じた指導に努めている。

(3) 体力の向上と一校一実践に関わって

毎週、火曜と木曜の業前の15分間を縦割りでの友だちとの関わりを大切にされた体力づくりの時間として、ストレッチ体操となわとびに取り組んでいる。「なわとびカード」で目標をもって取り組むよう仕組むことにより、休み時間には、なわとびの曲をかけるよう申し出る子どもがいる。

(4) 信頼される学校づくりに関わって

「マメルメール」「地区別電話番号一覧表」「見守り隊」

#### IV 研究の反省と課題

各学校の実践に共通していたのは、学校評価に現れた課題や改善点を、学校教育目標や学校経営方針、指導重点等に組み込んで、教育課程の中で具現化を図ろうとしたことである。

今後も、学校評価の結果を生かした教育課程の編成をどう進めていくか、学力向上に向けて教育課程をどのように編成していくかなど、教育課程を編成していく上での課題について、各学校の実践を持ち寄り、情報交換をしていく中で、研究を深めていきたい。